

「輸液セットを輸液ポンプから外したら要注意！」

[報告事例]

MRI 撮影のため、点滴を輸液ポンプから外して手動による滴下調節への切り換えを行った。

MRI 撮影中に流量調節器（以下、「クレンメ」）のローラーが移動し、輸液剤が過量に投与された。

使用した輸液セットは、輸液ポンプ専用であった。

[輸液ポンプ専用輸液セットの特徴について]

1. 輸液セットには、①自然落下専用輸液セット②自然落下と輸液ポンプの兼用輸液セット
③輸液ポンプ専用輸液セットの3種類があり、それぞれクレンメの種類が異なることがあります。
2. 輸液ポンプ専用輸液セットのクレンメには流量調節幅が、自然落下式に比べ狭いものがあります。
3. チューブの材質が自然落下式等と異なるものがあります。

⇒クレンメローラーのわずかな移動で流速が急激に変化する可能性があります。

チューブを強く引っ張ると、クレンメローラーが移動することがあります。

[輸液ポンプ専用輸液セット使用時における過量投与を防ぐために]

- ・ 手動による滴下調節が続く場合、「自然落下専用セット」又は「自然落下と輸液ポンプの兼用輸液セット」に交換する
- ・ チューブ（輸液ライン）を引っ張らない



紹介した事例の輸液ポンプ専用輸液セットに限らず、輸液ポンプから輸液セットを外したときは、要注意です。クレンメが全開で過剰投与に至ったり、クレンメが閉鎖のまま滴下不良となり再度血管確保を余儀なくされる状況に至る場合もあります。十分に確認を行いましょう。

(引用・参考文献 日本看護協会ホームページ「医療看護安全情報」)